

坂本 龍馬
いとう



海援隊旗(二隻の旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

公平 KOHHEI MUSHI 無私

「大義と忠誠の戊辰戦争—会津・土佐・三春の幕末明治—」展

〈会期〉前期 7月17日(四)～8月16日(四) / 後期 8月28日(四)～9月27日(四)

*前期と後期の間で資料の入れ替えを行います。

幕末、京都守護職を務める会津(松平家)と、外様雄藩の土佐(山内家)は、対等な藩同士の交際関係にあった。しかし戊辰戦争が勃発、両者の立場の違いは決定的となり、土佐を含む新政府軍と会津藩は若松城下で戦火を交え、多くの悲劇を生んだ。一方、奥羽越列藩同盟に参加した東北の小藩からは降伏する藩が続出、土佐との関わりを得て無血開城した三春藩もそのひとつであった。この時、三春から土佐の断金隊に兵として加わった中に、のちの民権家・河野広



石版画「戊辰戦争従軍土佐藩兵」(個人蔵 高知市立自由民権記念館寄託) 写真をもとに描かれた石版画で、明治31(1898)年作と思われる。前列中央が板垣退助。後列左端は片岡健吉。

今年は、戊辰戦争勃発、明治改元から150年の節目にあたり、各地でさまざまな催しが行われている。戊辰戦争に関わる展示も多いが、切り口は土地柄や館によって少しずつ異なるのが興味深い。当館では戊辰戦争で敵対した会津と土佐、そして戊辰戦争を契機に、その後民権運動を通じて交流が生まれた土佐と三春の関係を、展示を通じて描くことを試みる。

中がいた。河野は福島における自由民権運動の中心的存在となり、高知の民権家とも積極的に交流して、同じ目標のもと共に民権運動を戦った。また河野は、「民権ばあさん」として知られる楠瀬喜多も親交があり、喜多の墓石の文字は河野が揮毫したものである。

今回、福島からは貴重な資料を数多く借用する予定であるが、なかでも泣血氈(会津の降伏式で敷かれた毛氈の一部、会津若松市蔵)は、前期のみの展示となるが必見である。他にも、会津藩が將軍家への絶対的な忠誠を明確に示した、武井柯亭筆「御家訓」



錦絵「会津軍記(若松城降伏開城の図)」(館蔵) 明治元(1868)年9月の会津降伏式の様子を描いたもの。袴を着し、毛氈(のちに「泣血氈」と名付けられる)の上に立つのが松平容保・喜徳父子。右側には土佐の板垣退助ほか、新政府軍の主要メンバーが描かれる。

(福島・土津神社、前期のみ)、会津戦争で使われた砲弾類(若松城天守閣郷土博物館・会津若松市立会津図書館)、会津藩の弾薬箱(白虎隊記念館)、スパンサー銃(霊山歴史館)、岡山藩の錦旗(林原美術館)、白熊(高知県立歴史民俗資料館)、河野広中所用袖章(福島・三春町歴史民俗資料館)、戊辰戦争に従軍した片岡健吉が使用した笠やベルトなど(個人)が並ぶ。展示を通じて、高知(土佐)からは遠く離れた福島(会津・三春)との歴史的関わりを、多くの方に知っていただければと思う。

亀尾 美香

企画展の関連イベントとして、会津から野口信一さんを招いて講演会を実施する。野口さんは会津若松市立図書館長を務められ、『シリーズ藩物語 会津藩』（現代書館）、『会津えりすぐりの歴史』（歴史春秋社）などの著書のある会津郷土史の専門家である。高知ではなかなか聞くことのできない、会津の視点から見た戊辰戦争をテーマにお話しただく予定なので、ぜひ多くの方にご来場いただきたい。なお、講演会参加者は入館無料となるので、展示も併せてご覧いただきたい。

◆講演会「戊辰戦争にみる会津藩の精神性」

7月28日（土）14：00～16：00

新館1階ホール 聴講無料 定員100名（先着）

講師

野口 信一氏（元会津若松市立図書館長）

電話、ファックス、メールで事前にお申し込みください

学芸員の視点

新資料の紹介

三浦 夏樹

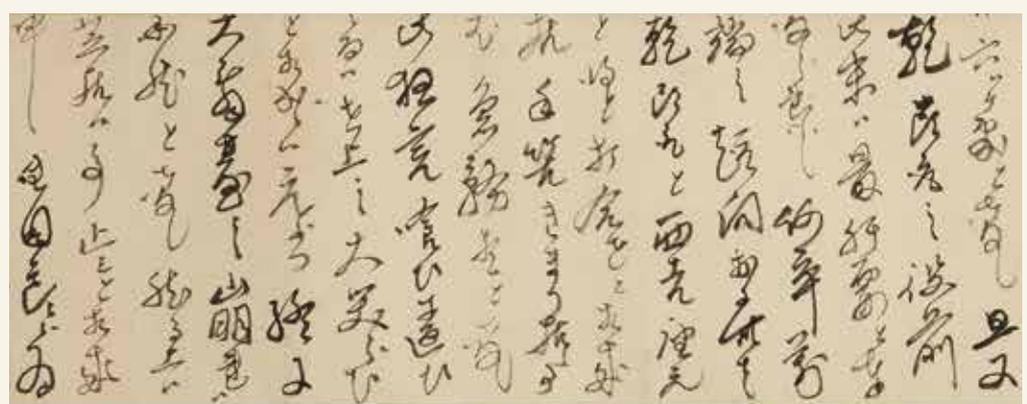
現在、常設展示室に展示している慶応3（1867）年9月4日坂本龍馬宛て木戸孝允書簡は、昨年7月に原本が発見され、グランドオープンに向けて収集した新資料である。内容は、倒幕を能楽の大舞台に見立てて、大政奉還を狂言に見立てたもので、これまでも複製や模写が知られており、幕末史の中では非常に有名な資料の一つだった。

しかも、龍馬宛ての書簡はあまり現存しておらず、これがわずか7通目である。龍馬宛て書簡は、龍馬自身が処分していたと考えられる。この書簡は、龍馬が買ったライフル銃千挺とともに土佐藩へ持ち帰り、渡辺弥久馬と本山只七郎という藩重役に渡して、武力倒幕への覚悟を促す材料としたため、処分されなかったのだろう。

龍馬が進めていた大政奉還は、平和倒幕と理解されることが多く、薩長が進める武力倒幕と乖離したものと理解されがちである。そのため、平和倒幕を進める龍馬を邪魔だと感じた薩摩藩が、龍馬暗殺の黒幕だという説も存在する。しかし、木戸の書簡を読めば、それらが間違いだとも明確に分かる。

能楽の大舞台（文中では大芝居とも書いている）とは、能と狂言、式三馬を含むもので、能だけで成り立つものではない。木戸は、大舞台（倒幕）を成功させるために武力倒幕派の乾退助（のちの板垣退助）と西郷吉之助が得と打ち合わせをして手筈が決まっていることが急務で、狂言（大政奉還）が食い違ふと大舞台全体の崩壊に繋がりがかねない、と書いている。

木戸は、倒幕を行い、王政復古の実現を目指しており、大政奉還はそのために必要な手順だと考えていた。決して、大政奉還を無意味だとか、武力倒幕と対立するとは考えていない。むしろ、



（且又

乾頭取之役前

此末八最肝要と奉レ

存られ申候。何卒方

端之趣向、於レ于レ此者

乾頭取と西吉座元

と得と打合せ二相成

居、手筈きまり居候事

尤急務歟と奉レ存候。

此狂言喰ひ違ひ

候而八、世上之大笑らひ

と相成候八元より、終に

大舞台之崩れ八

必然と奉レ存候。然る上八

芝居八事止ミと相成

申候。）

大政奉還に食い違ひが生じると、倒幕全体が崩壊する、と危惧しているほどだ。

龍馬は、同年9月20日の木戸宛ての書簡で、例え話も面白く、よく理解できたと、木戸の考え

に全面的に同意している。

幕末土佐藩の方向性を決める重要なこの資料の展示は、一旦、

7月9日までとなるが、10月25日からの特別展で再び展示予定となっている。

「坂本龍馬と幕末の長崎」

長崎シーボルト記念館
おきたたけし
織田 毅

ところで、龍馬に関する資料はあまり多いとは言えない。龍馬が根拠地とした長崎も同様で、残された資料は少ない。その一つが「英艦水夫酩酊暴行一件」（九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史部門所蔵）という資料だ。これ

幕末の風雲児・坂本龍馬ゆかりの地は数多い。その一つが、「亀山社中」や海援隊の本部を置いた、幕末の長崎だ。長崎は、戦国時代から約300年間貿易港として繁栄・発展した国際都市で、幕末には国内外のヒト・モノ（蒸気船など）・情報が集まる場所だった。「国際情報・貿易都市」という長崎の特異性が、龍馬が長崎を活動拠点とした理由だろう。

その根底には、隊長龍馬の洋学への深い認識があった。自身の手紙で「国を開らくの道ハ、戦するものハ戦ひ修業するものハ修業し、商法ハ商法で名々かへり見ずやらねバ相不成事（国を開くためには、

さて、龍馬には「洋学徒」としての一面もあった。「洋学」（西洋学）とは、江戸時代に受容・研究された西洋の学術・文化・技術のことだ。海援隊の規則にも、隊士の修業科目として、政法・火技・航海・汽機・語学があげられている。

そして龍馬の手帳にはオランダ語が書きつけてあった。「スコールステエンエツ、

たたとえば、安政2年に龍馬が稽古した時には、「打式百七十目／矢三度／道壺寸三步／七丁着」だった。「打」は砲弾の種類だろうか。「矢」は矢位で射角。「道」は導火線の長さか。「七丁」は砲弾の着地点までの距離で、約763メートルだ。高島流では、ホウイッル砲の操作の際、砲身の吟味・葉袋・早導火・焼夷弾・照明弾・早合を行っていた。当然、龍馬もこれらをマスターしていただろう。



シーボルト宅跡とシーボルト記念館。左端はシーボルト胸像＝長崎市鳴滝



6月の講演会も好評だった織田毅さん自らが語る

によれば「土州海援隊長才谷梅太郎ハ、よく諸藩士に知音あるもの也」と、龍馬は当時よく知られた「情報通」だったらしい。ちなみにこの資料は、慶応3年に長崎で発生した事件（いろは丸沈没、英軍艦イカルス号水夫殺害、江戸町外人傷害）についての記録で、龍馬の海援隊や土佐藩士が関係した事件をほぼ正確に書き留めたもので、長州藩

戦うものは戦い、修業するものは修業し、商法は商法で銘々かへり見ずにやらねばならない」と書き、長府藩士の「西洋の学問を通常どおり形式的に学ぶのではなく、その神髄を極めて是非を論じたい」とする考えを「誠におもしろい」と評価するなど、独自の洋学観を持っていた。

龍馬が最初に学んだ洋学は、高島流西洋砲術（「火技」）だ。これは、長崎の町年寄・高島秋帆が編み出したもので、龍馬は高島流の佐久間象山や土佐の砲術家・徳弘重斎に学んでいる。実際に龍馬が土佐で砲術を稽古した記録も現存する。たとえば、安政2年に龍馬が稽古した時には、「打式百七十目／矢三度／道壺寸三步／七丁着」だった。「打」は砲弾の種類だろうか。「矢」は矢位で射角。「道」は導火線の長さか。「七丁」は砲弾の着地点までの距離で、約763メートルだ。高島流では、ホウイッル砲の操作の際、砲身の吟味・葉袋・早導火・焼夷弾・照明弾・早合を行っていた。当然、龍馬もこれらをマスターしていただろう。

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう！ 視聴方法は簡単！

① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
② アプリを起動しマークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。
※本コンテンツは2018年9月30日まで閲覧可能です。

記念館のグランドオープンにあたり、2つの団体からそれぞれ有意義なものをご寄付いただきました。その意義と内容をご紹介しますとともに、関係の皆様へ感謝申し上げます。

幕末維新史を彩る 色鮮やかな錦絵を収蔵、展示

高山 嘉明

今年2月、グランドオープンに先立ち、高知りょうまライオンズクラブより資料をご贈りいただきました。高知りょうまライオンズクラブ創立20周年ならびに当館グランドオープンを記念してのご寄付です。

今回寄贈された資料は、幕末維新期の事件や人物を題材とした錦絵5点です。錦絵は、江戸時代にはじまり明治時代中期まで続いた、多色刷りの版画です。特に明治になると、当時の世相を生き生きと伝える絵が描かれるようになり、また幕末維

新期に起きた事件を扱うものも多く出されました。

5点の錦絵を詳しくみると、①嘉永7(1854)年の二度目のペリー来航時の海岸警固の状況を伝える絵図(1枚)、②桜田門外の変の事件現場を描く「桜田御門外ニ於テ水府脱土之輩会盟シテ雪中ニ大老彦根侯ヲ襲撃之図」(6枚)、③幕府の重要人物でジョン万次郎の経歴にも関係した江川太郎左衛門(英



会津城下における「官軍」と会津軍との戦闘を描いた錦絵「会津若松戦争之図」では、両軍入り乱れての激戦の様子がうかがえる。

龍)の逸話を伝える「近世人物誌江川太郎左エ門」(1枚)、④戊辰戦争を題材として、上方における転戦を双六風にまとめた「新春淀川噂の写絵」(1枚)、⑤同じく戊辰戦争のうち会津若松城攻防戦の激戦の様子を伝える「会津若松戦争之図」(3枚)となっています。これらはすべて、坂本龍馬やジョン万次郎の事績に関係する、あるいは幕末維新期の主要事件を扱うもので、当館の今後の展示においても重要な位置を占めることが見込まれます。

早速グランドオープンにあわせて、常設展示室入ってすぐの場所に「大老彦根侯ヲ襲撃之図」を展示しています。また、7月17日から始まる企画展「大義と忠誠の戊辰戦争―会津・土佐・三春の幕末明治―展」では「会津若松戦争之図」の展示が予定されています。

色鮮やかに幕末維新期の状況を伝える、当館にとって大変貴重な資料ですので、今後展示などに活用していきたいと思っています。

RYOMAの文字もくつきりと 本館前に「最新式ソーラー時計」設置

前田 由紀枝



時の記念日にちなんだ「日時計例会」に集合した高知南ロータリークラブの方々。ソーラー時計をバックに=6月7日

当館の新館と本館が対照的なように、2つの時計は古式的な日時計と科学技術による太陽エネルギーによるソーラー時計という対照的なものです。

寄付にあたり同クラブは、「時を刻む新旧の時計によって、幕末の志士坂本龍馬の思想やその志を、未来まで刻み続けてほしい」と言われます。

ソーラー時計の支柱には「RYOMA」という文字が施されており、太陽の光によってバツクの白壁にその文字がくつきりと浮かび上がります。そのデザインは記念館や桂浜荘などを訪れる人々にとって楽しいものになっています。同クラブの志とともに龍馬の志は、現在を経て未来へと時を刻み続けるにちがいません。

このたび、本館北側(出口)には、ソーラー式アウトドア時計がお目見えしました。同クラブ設立60周年にも重なり、記念館のグランドオープンとともに新たな時を刻んでいます。



白壁に映ったソーラー時計「RYOMA」の文字

後人への教え示して



士佐史談会会長
現代龍馬学会理事
宅間 一之

「あなたは、この場所を気に入っておられるようですね。私もここが好きです。世界じゅうで、あなたがたつ場所は、こしかないのではないかと、私はここにくるたびに思うのです」。昭和63年5月、桂浜



90年の歴史を語りつなぐ坂本龍馬像＝高知市の桂浜

での「龍馬先生銅像建設発起人物故者追悼会」にあたって、作家司馬遼太郎氏は、還暦を迎えた銅像龍馬に寄せたメッセージの冒頭で呼びかけている。
坂本龍馬像のたつ桂浜龍頭岬、ここはいま龍馬を愛する人たちの聖地である。万治の頃（1658～1660）には灯明台があり、湾内出入りの舟の標となっていた。「燈台の岬」や「行燈の岬」の旧名が残る所以である。外国船監視のための遠見番所も寛永15（1638）年におかれ、さらに文化5（1808）年には、日本近海に出没する外国船に対して大筒を配備すべく砲台場が構築されたのもここであった。巖頭、広がる水平線、龍馬と語るこよなき歴史の風景である。
龍馬登場は大正4年7月の「坂本龍

馬彰勲碑」からであろう。龍馬像への道脇に大小二つの石碑がある。細長い碑は「故坂本龍馬先生彰勲碑」で、土方久元の龍馬を弔う七言絶句に板垣退助の撰文がある。隣の自然石は、日本海海戦の前夜、皇后の夢枕に白無垢の龍馬が立ち、連合艦隊の勝利を約束したとの話にちなむ「とこしへに国守

るらんなき魂の皇后の宮のゆめに誓ひて」という細川潤次郎の「忠魂護皇基の碑」である。そして昭和3年5月27日、「高知県青年」達の手によって、龍馬は榮姿そうそう銅像となって登場し後人への教えを示した。落成の日、海上には日本海軍省派遣の駆逐艦「ハマカゼ」が、その勇姿を桂浜沖に泊め、陸には地元44連隊の中島中尉指揮下の兵士達の姿もあった。500を越す人々の眼差しは、紅白の幕落ちる瞬間に集中した。司馬さんは言う。「たとえ中道で斃れようとも、志をもつことがいかにすばらしいかを、世界じゅうの若者に、ここに立ちつづけることによつて、無言で論しつづけているのです」と。
台座の銘板にある「建設者 高知県青年」の文字は、90年の年は経ても輝き続け、静かに歴史を語りつないでいる。

『桂浜・浦戸 碑めぐり』⑩

浦戸一揆の悲劇を後世に 「一領具足供養の碑」

桂浜花街道を西から東へ桂浜の方向に進み、カーブの上り坂に差し掛かる少し手前に、「一領具足の碑、六体地藏」と書かれた緑色の看板がある。そこを北に進むと、正面に石丸神社という小さな神社があり、右手に六体の地藏が並ぶ。更に奥に進むと「忠魂不滅」と書かれた一領具足供養の碑が建っている。この碑の辺りは草木が覆い茂り、鬱蒼とした雰囲気であったが、梅雨時期に咲く紫陽花の紫やピンクの鮮やかな色が美しくとても印象的であった。

でも盛親に残すように願ひ、浦戸城に立てこもり抵抗する（浦戸一揆）。しかし、長宗我部氏の重臣らの裏切りに遭い、籠城した一領具足273人は斬首され、首は塩漬けにされて大坂の幕府の役人井伊直政に送られ、胴体は埋葬された。その後も一領具足による反乱が起こつたが、山内一豊により鎮圧されている。

一領具足とは長宗我部氏が農民や地侍を対象に編成、運用した兵士や組織のことで、普段は農民として生活しているが、田畑を耕すときも、その傍らに槍や鎧を置き、いざ合戦になると、それらを取りその場から出陣するのである。

石丸神社は、胴体を埋葬し、石丸塚として祀られていた所に、昭和時代に地元の有志によつて建立され、六体地藏は、野市町・吉祥寺の住職堀川善明尼が一領具足の供養のため広く浄財を募り、高知の財界人の野村茂久馬からも援助を受けて建立した。一領具足供養の碑は野村茂久馬が建立し、碑には「荒城の月」の作詞でも知られている土井晩翠が作った詩が書かれており、非業の死を遂げた彼らの悲劇を後世に伝えていかなくてはならないと感じるものであった。

長宗我部盛親は関ヶ原の合戦で西軍に味方して敗れ、土佐を取り上げられることになり、一領具足たちは、一部



初めてこの場所を訪れ、「一領具足の身に起こつた出来事を肌で感じ、そつと手を合わせてその場を後にした」
小島 千穂・松本友

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう！

視聴方法は簡単！

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。
※本コンテンツは2018年9月30日まで閲覧可能です。



の人間にはならないことで、少しはその精神を実践していきたくて、今日改めて思っています。

5月6日 兵庫 M・Y 49歳 女性

「かなわない」
私は龍馬さんより慎太郎さんのファンです。しかし、これが龍馬さんかと驚いた言葉があります。目の様に鼻の先に土をつけ、頭から砂をかぶる様な姿勢で生きています。「こんなに腰を低く、心をやわらかくたもつとして生きていたのが龍馬さんだと感じた時、同時代の仲間がかなわなかったらどう思ったもので。また、なぜかこの言葉はあまり紹介される機会がない様に思うのも不思議に思います。

5月9日 高知 Y・N 51歳 男性

「みんなに報告」
やっとすばらしい高知に出来ました。快晴に見守られてとても感激しました。また来るのができたらもっと時間をかけて見学したいです。家に帰ったらみんなに報告をします。今日は本当にありがとうございました。

5月15日 東京 Y・A 70歳 女性

「長崎から」
私は長崎から遊びに来ました。龍馬様が愛した山、風頭山、も桂浜のよつにきれいな海を眺めることができます。長崎の人は坂本龍馬様をとても愛しています。また遊びにきます。

5月15日 長崎 26歳 女性

「半世紀の夢」
龍馬さんの思いの募った土佐に來れて大満足です。念願叶いました。半世紀の夢、達成。ありがとうございます。またゆつくり会いに来ます。

5月18日 大阪 R・M 50歳 女性

「じつくり3時間！」
新しい記念館おめでとうございます。やっとくることができました。展示室では音声ガイドをおかりして何と3時間、すべての解説を聞きながら見させていたできました。特別展の真筆は、すみの色、筆の流れなど、今そこで書かれているような気がしました。今回はじっくり納得いくまで見たかったです。一人でやってきました。大正解でした。ずっと相談のついでにたいしていた娘は教員2年目になりました。フランス人の旦那さんと仲良く暮らしています。私はこの3月で退職となりたくの人に祝っていました。私はこの3月で退職もここに足を運び、たくさんのことを聞いていただけただけでどうにか過ごせました。本当にありがとうございました。

5月19日 東京 C・E 60歳 女性

「三重から7時間」
今日は三重県から7時間かけて高知県にきました。お目当てはかつおのたきです。「坂本龍馬」って聞いたことあるし、せつかかだからと思つてこちらにはきました。勉強が二ガテで坂本さんが何をしたらなのか知らないまま入ったのですが、大政奉還を進め

た人と知つてびっくりしました(薩長同盟だけだと思つていました)。これからもたくさんの人を楽しませてあげてください。

5月19日 三重 A・Y 27歳 女性

「いつも心に龍馬」
やっとこの場所に來れて感無量です！同じ土佐人としてとても誇らしく嬉しく思います。自分は龍馬さんの生き方、考え方をすべてに興味が有り、つも頭のどこかに龍馬さんの事があります。あの時代に自分が生きていたら是非会って色々な話をしてみたいです。ひょっとしたら自分の先祖は、あなた(龍馬さん)とお会いしているかも……。そう考えたらなんだかワクワクドキドキします。太平洋を見るときは心が落ちていますがすがすがしい気持ちになります。前向きな気持ちにもなります。なぜでしょうか……。きっと龍馬さんの事を考えてしまつていて自分かと思ひます。ありがとうございます！これからも見守つていてください。桂浜から！そしてまた桂浜に逢いに來ます。待ちつてください。

5月23日 高知 N・O 41歳 男性

「ちりめんの様」
来たぜよ！高知この海の向こうへ貴殿は思いをはせたのですね。ちりめんの様なあのやさしい波の間に間にどう熱さを乗せたのだらう？

5月25日 岐阜 K・M 62歳 女性

「コミニケーション」
筆まめに詳細な手紙を残してくれたおかげで歴史を興味深く学習することができます。現代は人と人との深みが薄いと言いが如何にしてコミュニケーションするかなかなか全体の話題にはなりません。考えをきちんと伝えることの第一歩、手紙を書く、メモを残すなど現代でも大事なことです。よね。

5月25日 高知 N・I 72歳 女性

「娘の名は...」
はじめて高知を旅して32年。龍馬さん好きの妻と知り合つて、娘に「こな」と名付けました。妻と知り合つたのも高知でした。娘は来年大学を卒業します。この記念館に初めて来たのは、確か開館した年、高知市内にあった「コーヒーハウス」にいたの。マスターと2人でした。マスターは5年前に亡くなったみたいで、夕々に高知に來るのはさびしいものです。

5月27日 神奈川 T・S 48歳 男性

「人間らしさと暖かさ」
昨年に続き、桂浜まで龍馬さんに会いに来ました。早速シエイクハンドもさせてもらいましたよ。たくさんの資料が展示されていて、これは龍馬さんを知るには最適で不可欠な所だと思います。そして昨年3月に來た時には見られなかった発見された手紙を見ることができ、とても嬉しかったです。歴史の証人になった気持ちです。また乙女姉さんやおやべさんに送つた手紙は暖かさがにじみ出て、維新の志士であると同時に家族を心配する人間らしさを感じます。

龍馬さんのよつに人間としての暖かさを大事にして、仕事も精一杯やっていきたいと思ひます。いつも勇氣と希望をありがとうございます。

5月30日 京都 R・N 51歳 女性

「乾杯！」
この景色を見て異国を思い描かれた貴男様はとでも賢く立派な方だったんだと改めて思ひます。私たちは貴男様のような戦乱の世の中を過してはいませんが、何となく訪れた時、貴男様のことが思ひ出されます。幸せと平和な毎日に感謝しながら、乾杯！

6月3日 愛媛 S・H 43歳 男性

「教科書にのらなくても」
同じ高知県民として誇りに思ひます。大好きです♡教科書には絶対のつておくべき人物だと思います。もしのらなくても、私は後世に龍馬さんのことを伝えていきます！ありがとうございます！

6月3日 高知 H・N 16歳 女性

「龍馬の如く」
自分と同じ高知出身の偉人が居ることが誇りです。何かにつまついた時に龍馬殿の生き様を思い、日々仕事にはげんでいます。これからも志を持ち龍馬殿のように生きていきます。

6月3日 高知 T・M 35歳 男性

「ファンクラブ♡」
もし私が坂本龍馬様の時代に生まれていたら、さつと追っかけをしていたいと思ひます。今でいうと、ファンクラブに入り、どこまでも会いに行つていたいと思ひます。

6月6日 岡山 S・Y 58歳 女性

「大きなエールを」
新しくなった龍馬記念館にやっと來ることができました。人生の節目節目で訪れている気がします。今回も大きなエールを龍馬さんからいただいたと思います。次回も報告にまいります！

6月8日 福岡 S・Y 57歳 男性

編集者より

一年の休館期間を経て、やっと龍馬ファンの皆様をお迎えすることができました。皆様のメッセージから龍馬への熱い思いがあふれているように感じます。その熱い思いにお応えするべく、これからも充実した展示と、心を込めた接客で皆様のご来館をお待ちしております。 尾崎 由紀

職員紹介

「より充実した記念館に！」

4月1日付で高知県立坂本龍馬記念館の副館長に就任いたしました。はや3カ月となりました。この間、4月21日のグランドオープンや、リニューアル後の初めてのGW、たくさんクルーズ船の乗客の方々の来館と、目まぐるしい毎日が過ぎております。

オープン当初は新しい施設に慣れていないこともあり、ご来館いただいた皆様に、大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。その後、皆様の励ましや、貴重なご意見・ご感想をいただき、職員みんなで、もっと充実した記念館にしていきたいと頑張っております。

今後、来館される皆様を楽しんでいただけますよう、そして、リピーターや坂本龍馬記念館ファンが増えますよう、誠心誠意お迎えしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

副館長 溝淵 智栄子

私たちがご案内します！



川口 雅子



森木 豊茂



濱添 善江



島巻 佳代

■ 次回は「記念館の夏 輝く海」

～海の表情とともに、「ぎゃらりい」も新たな空間に～

現在展示中の「『一筆啓上龍馬殿』～握手の鎖と手紙で繋ぐ～」展は7月31日(火)まで、後一ヶ月を残すのみとなりました。242通の様々な龍馬へのメッセージが観覧者の方々を引き付けています。是非ご鑑賞いただければと思います。

さて、8月・9月と12月下旬～来年3月は、年に2回の当館主催の企画展示とそれ以外の展示期間です。この間は、“最後に海を見ながら作品を鑑賞できる、ほっと一息つける空間”としての「海見える・ぎゃらりい」を満喫していただく期間となります。



岩本和子「龍馬の見た海」



中村斗世木「夕顔」



「海見える・ぎゃらりい」は、「『一筆啓上龍馬殿』～握手の鎖と手紙で繋ぐ～」展坂本龍馬記念館新館・本館の中でも太平洋を一望できる場所として空間そのものが展示物でもあります。今からの季節は輝く夏の海と夕陽が沈んでゆく時の流れをごらんいただき、冬の季節は深い海に夕暮れが染まり、果てしないパノラマを感じていただければと思います。

これからは、その空間に当館の所蔵作品などをエッセンスとして加えてゆくというぎゃらりいの在り方を創っていく予定です。

8月・9月の「記念館の夏 輝く海」では、大胆な色合いと構図で描かれている100号の油彩、岩本和子さんの「龍馬の見た海」を展示します。また、中村斗世木さんの龍馬と幕末に関するボトルシップは、「いろは丸」「夕顔」「咸臨丸」「ジョン・ハウランド号」「黒船 サスケハナ」「黒船 ミシシッピ」「黒船 サラトガ・プリマス」の7作品をディスプレイを新たにご覧いただく予定です。

1日として同じではない自然の表情と工夫された人間の表現を、この「海見える・ぎゃらりい」でリラックスしながらご堪能いただければと思います。 中村 昌代

■ 「海見える休憩コーナーでもホッと一息」

本館2階「海見える・ぎゃらりい」上、中2階「休憩コーナー・海窓」のスペースが広がりました。西側から南に向けてカウンター席があり、目の前には海・水平線・空。階段を挟んで北側には県材を使用した4人掛けの丸いテーブルと椅子が並んでいます。車いすやベビーカーの方はスロープをお使いいただけます。



セルフサービスの休憩場所ですが、現代の時空の中で龍馬に思いを巡らすにはおすすめでと思います。記念館に訪れた際、ちょっと疲れたら、ここで一息どうぞ!

中村 昌代

入館状況

2018年6月20日現在
(1991年11月15日開館以来 26年218日)
◆総入館者数 3,990,020人
◆グランドオープンまで 3,936,760人
(2017年4月1日～2018年4月20日休館)
■グランドオープン(2018年4月21日)以来 53,260人

編集後記

開館スタートから2カ月。すでに5万人を超える入館者をお迎えしました。新しくなった記念館に驚きと感動の声をお聞きするたび、嬉しさと誇らしさを感じています。一方、不十分なこともあり、駐車のことなど皆様にご迷惑をおかけすることも生じています。夏休みを前に気持ちを引き締めているところです。

新しくなった記念館でこれからも多くのドラマが生まれることでしょう。一人ひとりの心に残る記念館づくりに今まで以上に誠実に向き合っていきたいと思います。(ゆ)

館だより「飛騰」第106号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏
〒781-0262 高知市浦戸城山830
発行日 2018(平成30)年7月1日 TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015
発行 公益財団法人高知県文化財団 http://www.ryoma-kinenkan.jp
高知県立坂本龍馬記念館 「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00～17:00 年中無休
入館料 一般 490円(企画展開催時 700円)
高校生以下無料

高知県・高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料



「飛騰」は郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は120円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください。
〒781-0262 高知市浦戸城山830 高知県立坂本龍馬記念館「飛騰」購読係 まで

私のテーマ

浦戸の歴史 悲劇の武將 とうじょうせきのひょうえさねみつ 東條関之兵衛実光



長宗我部顕彰会
吉松 由宇子

現在、坂本龍馬記念館の建つ浦戸城跡は、長宗我部元親、盛親親子最期の本城であり、織豊期の土佐では唯一、天守台と石垣をそなえた中世より近世への移行途上の築城様式を擁していると考え、坂本龍馬の銅像の建つ桂浜も出丸の一つである。浦戸全域とその周辺は史跡であり多くの伝承が残されている。

この話は郷土史家、瀬戸鉄男翁（徳島県在住）より聞き書きしたものや実光の御子孫である天羽達郎氏（徳島県在住）より聞き書きしたものである。天羽氏は、阿波でも又土佐でも評判の悪い先祖の東條関之兵衛実光の名誉回復を望んでいるとその墓に手を合わせて涙ぐむ。

元龜2年（1571）長宗我部元親の末弟、島弥九郎親益は有馬温泉に湯治に行きその帰り嵐をさけ阿波国海部奈佐に停泊中、海部宗寿に襲撃され一行のもの三十余名とともに殺された。元親は天正3年（1575）土佐を統一すると、弟弥九郎の仇討との口実で阿波に侵攻し、実光、海部、日和佐と攻め上がる。その一



浦戸城とその城下町（想像図）

た土地を返上せよと命じた。従わない元親に、四国攻めを決意した。

天正10年6月3日総攻撃と決め岸和田に兵1万5千と百艘の船を集結した。しかしその前日の6月2日に信長は本能寺で

方では、元親は縁者であり明智日向守光秀の筆頭家老斎藤内蔵介利三を通じ織田信長に接近し嫡子弥三郎に諱を賜り長宗我部信親と名乗る。その上、「四国は切り取り勝手次第」との朱印状を得ていた。だが阿波の桑野城は難攻不落であり城主の東条関之兵衛は甲斐の武田の血を引く猛將であった、攻めあぐねた元親は家老の久武内蔵助の娘を養女として関之兵衛に嫁がせ、一族として味方とした。

一方信長に降伏した三好山城守は、茶道具に興味を示す信長に自慢の名物茶器を献上し、信長の三男信孝を養子にもらいたいと急接近し元の領地である阿波国の帰属を懇願した。

殺された。当然ながら四国攻めは中止となる。

これは単なる偶然か？それとも元親を助けるため斎藤利三が明智光秀をそそのかしたのか？

「元親黒幕説」

強力な援軍を失った阿波の三好軍は、同年8月上旬、2万3千の兵を率いて阿波の北方に侵攻して来た長宗我部元親に中富川の戦で敗退した。勝瑞城に籠城する敵將十河存保に関之兵衛は使者に立ち存保に開城を促し、退路を作り讃岐に逃した。余談であるが十河存保の母親は少少將と呼ばれた絶世の美女であり、のちに元親の側室になり盛親と右近太夫、そして女子一人を産んだとの説もある。

その後関之兵衛は要害の地木津城を預かる事となる。天正13年四国統一を目前にした元親ではあったが秀吉の四国攻めが始まる。秀吉の弟秀長は淡路、鳴門方面より、蜂須賀正勝は讃岐方面より木津城を挟み討ちにした。

蜂須賀軍に水源を断たれるも、八昼夜奮戦するが叔父東条紀伊之守を通し秀長は関之兵衛に和睦を促す、秀長は『木津城明け渡しを条件に長宗我部氏に土佐一国を安堵させる』との約



関之兵衛は7人の家老とともに今も浦戸で静かに眠っている。

東を結ぶ。この報告の為、7人の家老とともに土佐に向かった関之兵衛でしたが、『木津城が落城し東条関之兵衛は土佐に逃げ帰った』との噂が立ち、阿波の武將は兵を引き上げた。東部戦線は一挙に崩れてしまふ。密約を知らぬ元親は「なぜ木津城に踏みとどまらずに戦わないのか」と激怒した。

新居浜の金子城主、金子備後守のように最後の一兵まで戦い全滅する城が相次ぐ中、他の武將への示しがつかず、浦戸城内の牢屋（旧浦戸小学校の辺り、長宗我部地検帳による）に入牢させた後、涙を吞んで自刃を命じた。身内としての礼を尽した暈上での切腹であったが家老七人と共に無念の自刃であった。元親は他の戦線にいて土佐にはいなかった為直接命じたのは信親である。元親は関之兵衛が命懸けで伝えたかった秀長との密約を知っていた上での命令だったのか、知らなかったのか？この数ヶ月後の7月、元親は降伏し関之兵衛の願った土佐一国は長宗我部氏に安堵され、秀長は関之兵衛との約束を守った事になる。

浦戸城址遺構発掘調査が来年度行われる予定である。

テーマ

「明治維新150年 ～龍馬が目指した新国家～」

今年の「高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会」は5月26日(土)、4月のグラウンド・オープンに伴い新設した新館ホールを会場に行われ、第10回の記念大会開催となった。

来賓の高知県文化生活スポーツ部の門田登志和部長様、高知市教育委員会の高岡幸史教育次長様から、明治維新150年にあたり、改めて坂本龍馬の果たした役割に関心が高まる中、今後の坂本龍馬記念館と10年目を迎えた本学会の活動への期待を込めた祝辞をいただいた。

特別講演には、福井市立郷土歴史博物館館長の角鹿尚計様をお招きし、「福井藩と坂本龍馬」特に「越行の記」・「新国家」書簡を中心に」と題して福井藩側からの視点で書簡を解説していただいた。



会員による研究発表は、左頁の通り、網屋喜行氏、岩崎義郎氏、中村茂生氏、高山嘉明氏の4氏による興味深いものとなった。詳細は本学会の発行する「論集」をお目通しいただきたいと考えているが、敢えてキーワードを「吉田東洋の藩政改革」、「西郷隆盛の土佐来国」、「海援隊快挙」、「幕末京都の土佐藩」とさせていただきます。

宣言

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は、平成二十一年四月の発足から十年目を迎え、県内外から七十四人が参加して第十回研究発表会を開いた。テーマは「明治維新一五〇年」龍馬が目指した新国家。社会のさまざまな場面で閉塞感が漂う中、龍馬とその時代に学び、人と人とのつながりの大切さを考えようとしたものだ。

特別講演は福井市立郷土歴史博物館館長の角鹿尚計さん。他に、県内外の四人の研究家が日頃の研鑽に基づいた発表を行い、私たちは多くを学んだ。龍馬が逝って百五十一年。県下では「志国高知幕末維新博」の第二幕が坂本龍馬記念館のグラウンドオープンに合わせて開かれている。一方、日本を取り巻く北東アジアの緊張感は最大限に高まっている。このような時こそ、私たちは龍馬らの生きた激動と変革の時代に学び、悔いの残らない道を確実に歩んでいきたいと思う。

平成三十年五月二十六日
高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会



福井市立郷土歴史博物館 館長 角鹿尚計氏

福井藩と坂本龍馬 一特に「越行の記」・「新国家」書簡を中心に一

特別講演

近年発見された「越行の記」や「新国家」の書簡によって、改めて福井藩と龍馬の繋がりが注目されており、今回はこの二つの書簡を中心に、福井藩と龍馬について、福井市立郷土歴史博物館館長の角鹿尚計氏にご講演いただいたので、レジュメを引用して内容を紹介します。

まず、両書簡から言えることは、「由利公正傳」や「子爵 由利公正傳」等が大いに信頼できるという点である。これまで両書は「かなりの間違いや誇張、それに検証困難な記事がみられる」として「参考の範囲」の文献として扱われていたようだ。それが、龍馬が書いた史料が見つかり、内容に相違が無い、ということ、これまでに「参考の範囲」と考えられていた史料の信頼性が証明された。

この二書簡を書いた頃の龍馬が、福井藩に求めていた事は、大きく二件考えられるようだ。まずその一件は、福井藩の第三極の立場を期待し、特に春嶽の上洛によって朝幕間を平和的に調整し、徳川慶喜の新国家政府への参画と軍事権の返上を朝幕両方の勢力に容認させること。いま一件は公正を財政担当の閣僚として新国

家政府に参画させることである。そして、龍馬は松平春嶽はじめ福井藩の上洛に期待し、時局の進展を福井藩とともに遂行するつもりであった。

また、龍馬としては、福井藩士が春嶽上洛計画中止により二派に分化し、対立していたことは承知していたが、福井藩の内情を超えて今は新国家の建設に公正が必要であり、しかも急を要すること、を中根雪江に切々と伝えている。

さらに、龍馬と永井玄蕃の面談内容は、中根更に春嶽や福井藩にも関わる内容を含んでいた。この書簡が龍馬暗殺の五日前であり、永井は龍馬暗殺の黒幕と目されて来た人物の一人でもあることから「追日」と付箋の朱筆との関係はどう見るかによってこの書簡の重要性が高くなるようだ。

まとめとして、幕末動乱期の福井藩が公武合体・大政奉還・王政復古に多大な影響を与えながら、倒幕・佐幕でも無い第三極の公議政体論の立場を貫き、その活動家として土佐藩の坂本龍馬を評価し、支援し協力・共鳴して福井藩論を推進したことを改めて提唱するものである、と結ばれた。



龍馬が春嶽や三岡を高く評価し、期待していたことは二書簡からも読み取れるが、反対に福井藩からも高く評価してもらっていたことを、福井に残る史料を用いて教えていただき、大変参考になった。

「明治維新」研究史における、池田敬正氏の「吉田東洋による藩政改革」論



鹿児島県立短期大学名誉教授
（「吉田」本家末裔）

網屋 喜行

明治維新の研究は多くの蓄積があるが、その研究史のなかに、土佐藩政研究者である池田敬正氏の説を位置づける。

明治維新の捉え方の変遷は、戦前における「王政復古論」、戦後を中心とする「絶対主義成立論」、その後の「国民国家形成論」という、三つの時期に大別できる。なかでも注目すべきは「絶対主義成立論」であるが、ここでは明治維新に絶対主義への傾斜が認められるかという点が議論された。この観点から天保期以降の土佐藩の藩政改革を分析したのが池田氏で、天保改革を復古的反動的改革、安政改革を絶対主義への傾斜が認めうるものと位置づけた。

西郷隆盛、二度の土佐来国



NPO法人土佐観光ガイド
ボランティア協会顧問

岩崎 義郎

西郷隆盛は、前後2回土佐を訪れている。第1回目は慶応3年（1867）2月16日に到着した。薩摩藩の島津久光の命を受けて、山内容堂の上洛を促すために土佐を訪れたものである。なお、この滞在中に坂本龍馬の兄権平が銘刀吉行を携えて西郷を訪ね、龍馬に渡してくれるよう依頼した。

第2回目として、西郷隆盛は明治4年（1871）1月再び土佐に来ている。この時は、鹿児島藩大参事としての来国で、明治新政府の権力強化のため薩摩・長州・土佐の3藩から親兵を献上することについて協議するためであった。これら2度の来国について、当時の記録や滞在先に遺されたゆかりの資料などを紹介した。

「海援隊」はどう描かれたか—戦前期の舞台と映画から



高知大学非常勤講師

中村 茂生

昭和戦前期における坂本龍馬像について、特に昭和8年の無声映画「海援隊快挙」監督脚本志波西果、撮影大井幸三、主演月形龍之介、朝日映画連盟製作）に注目した。

この作品には、ラストシーンに帝国海軍の実写映像が使用されていることなど、いくつかが注目すべき点がある。これには、満洲事変、血盟団事件、五・一五事件、国際連盟脱退、映画国策樹立に関する建議案が衆議院を通過したことなど、昭和8年に起きた出来事が影響を与えていると考えられる。そういったさまざまな要因から、「海援隊快挙」では、昭和八年ならではの「龍馬像」が提示されるにいたった。

幕末期京都における土佐藩の活動



坂本龍馬記念館学芸員

高山 嘉明

幕末期は多くの藩が上京し、中央政局における主導権を争ったが、その土佐藩の事例を概観する。特に注目するのが藩主山内豊範と、一族山内兵之助の二人の上京である。それぞれ、三条家との姻戚関係が強く影響した豊範の上京、藩を代表する立場を担うことで長期にわたった兵之助の滞京、と位置づけられる。また、当地での主要任務であった御所の警衛は、尊王の観点からも非常に重視された点が特筆される。これらを通じて、従来それほど注目されなかった土佐藩の京都での活動の一端を明らかにするとともに、容堂を中心とした論じられてきた幕末期の土佐藩政について新たな側面の提示を試みた。

矢印の研究(補遺)

宮川 禎一



現代の遍路石 (松山市石手寺前)

何号か前に

「矢印の研究」という記事を書いたが、今回はその補遺である。江戸時代には現在よく使われている「→」のような矢印はなかった云々という話を書いたのだが、方向を示す記号はいつの時代も必要だ。

て、手のひらを広げてやりわり導く形だ。「手のひら形」と呼ぼう。この形が初期にあつてやがて江戸時代後期、十八世紀後半から十九世紀にかけては人差し指でピストルをつくるような「指差し形」が隆盛を極める。もうこれが普通だ。手と袖口(弘法

最近気付いたが、四国にお住まいの方なら見慣れた遍路道標(遍路石)にその図像があつたではないか。四国八十八箇所を巡るお遍路さんのために道路の辻の横に建つて寺の方向を指し示す「手印」(てじるし)である。江戸時代の後期から明治時代を中心に四国各地に多数建立され、自動車時代でない徒歩のお遍路さん(もちろんちゃんとした地図やスマホナビもない時代)に役立つものだ。お遍路さんをもてなす「お接待」にも通ずる行為だ。造立年号が石柱に刻まれていて、年代順に編年できるのも嬉しい。

最も古い遍路石は貞享年間とされるので十七世紀の後半に建てられたものだ。それは通常の人差し指を出した「指差し形」ではなく

さて我々がよく知る「→」のような表現の遍路石も少しだけあるのだが、それは昭和三十年以降のごく最近のものだ。近年作られた復古調の遍路石でも「指差し形」が多い(写真)。

四国ではそうだが、筆者の住む京都山科では近所に「みぎうじみち」「ひだりおおつみち」など文字で方向を示す江戸時代の石柱が建っている。現在は自動車で道路を走ればそこら中が交通標識としての矢印→だらけだ。わかりやすいが味気ない。遍路石の手印は人にやさしい気がするのである。

龍馬の話から遠ざかっているが、このような方向を示す記号を世界的に調べても面白そう。誰か卒論でやってみませんか？

龍馬のひろば

① この会の 将来のあるべき姿(こころ)

福岡県柳川市 森貴光

この国の頭脳明晰でお偉い方々が熟考された上で「龍馬の名を削る」と苦渋の決断をされたのであれば、削つていただいでよいのではないのでしょうか。その時こそ現代龍馬学会の存在意義があるのでは? 「入試」と「教育」。未来の子供達の為に、我々がその「教育」を受け持てるよう、会として会員として自己研鑽するべきだと思います。

② 教科書から坂本龍馬が消えてしまつてもいいことについて

高知県中土佐町 佐竹敏彦

高大連携歴史教育研究会が提唱した坂本龍馬などを覚えるべき用語が多すぎるとして削減案だが、代りにありもしない「南京大虐殺」や「従軍慰安婦」などを追加するという。矛盾したもので、日本から正しい歴史を奪う行為であり、土佐人の誇りを蔑ろにするものです。人は先人の事跡を通じて目標を知るもの。許されざるものです。

奈良県香芝市 保田健志

私が歴史に興味を持った入口は

坂本龍馬でした。龍馬は平和的革
命で近代国家を目指したり、株式
会社創立等、多数の日本初を行
いました。明治維新の原動力になり、
現代にまで多大な影響を与えてい
ます。歴史だけでなく道徳にも通
用する人物で、次世代にも伝え続
けていきたい。日本史のみならず
世界史にも通用する人物です。

③ 私が坂本龍馬に惚れ込んだ理由

高知市 大崎隆徳

龍馬が他の偉人と違ったのは、自分が天下を取らなかつた事です。多くの偉人は、地方を治める。国を治める。または世界を支配する事が目的であつた人が多い。言つてみれば、自分の私利私欲のための生き方です。これに対して龍馬の生き方は、自由な社会、平和な社会、そして平等な社会を作るために奔走した人生だつたと思います。150年経つた今でも多くの人に愛されるのはそれが大きい。自分のためなら誰でも頑張れるが、他人のため、世の中のために命を懸ける事はなかなか出来ません。私が龍馬に惚れ込んだ一番の理由です。

大阪府枚方市 影井富美雄

龍馬を読んで、又映画も見て青春時代を飛翔する気持ちが大きくなりました。龍馬の誕生がなければ日本は存在しない。社会科の教

科書から消える記事があり、もつてのほかです。現在の若者に龍馬精神を又、教育者に尊ばれる心があり、日本人の心であります。是非貴学会の力でご努力でもつともつと訴えて下さい。現代龍馬学会様

④ 現在研究を進めている事柄の紹介

高知県四万十市 松岡利光

